

ジュニアバド初の江陵高ペア



北海道大会を制し初出場の全日本ジュニア大会で勝利を狙う江陵高の(左から)山口史玖・島尻慎吾組

島尻・山口組 全国へ意欲

バドミントンの全日本ジュニア出場選手北北海道選考会(8月12、13日・帯大谷高、北海道バドミントン協会主催)男子ダブルス決勝で島尻慎吾・山口史玖組(江陵高2年)が上山昇大・関根陸組(帯大谷高2年・1年)に2-1で競り勝ち優勝を果たした。島尻・山口組は江陵高史上初めてJOCジュニアオリンピック

クカップ第37回全日本ジュニア選手権(9月14、17日・長野)の出場権を得た。北大会では準決勝と決勝でファイナルゲームの激戦を制した。同高主将も務める島尻は「最後まで攻められた。全国では出場したからには一つでも多く勝つ」と闘志を高めている。(北雅貴)

1つでも多く勝ちたい

男子ダブルスには11組が出場。初戦の準々決勝を快勝した島尻・山口組は、準決勝で第1シードの太田竣・伊東駿組(旭川実高2年)と対戦。太田は今夏のインターハイに出場している実力者だ。島尻は「できるだけ食らいつつこうと考えた」と振り返った。

第1ゲームを12-21で失ったが、緊張がほぐれた第2ゲームから反撃を開始。山口は「シャトルが浮かなくなったので、相手が簡単に決められなくなった」。2人の動きが良くなり21-17で同ゲームを取り五分にする。最終ゲームも優勢に進め、最後は山口の力強いショットを相手が返せず21-18で勝利を決めた。

決勝は十勝勢対決に。7月下旬の全十勝高校夏季大会では1-2で敗れている。

男子ダブルスには一進一退の攻防となりジュニアの末のものにした。ファイナルゲームは前衛で島尻が動き回り、左利きの山口が後衛で178センチの長身から角度あるスマッシュを打つ得意な形で攻めた。マッチポイントを握った20-16となつてから、2人に若干の意識のずれが生じた。

まだ伸びしろ

島尻は「決め急いでネットに掛けてしまった」とし、山口は「ミスをしたことに気を取られ、羽根が浮いて相手に攻められた」と話した。20-19と足踏みしたが、島尻が相手サーブを鋭いプッシュで返して熱戦に終止符を打った。田代浩司監督は「山口のネット前に入るスピードが上がり、2人の総合的な速さにつながっている。まだ伸びしろがある」とさらなる成長を期待している。

【男子】◇シングルス▽1回戦 (関係分と決勝)

池田侑輝 2-0 菊地陸哉 (帯一中) (旭川愛宕中)

▽2回戦

山口史玖 (江陵高) 2-0 宇高駿佑 (岩見沢緑中)	丸山拓海 (帯一中) 2-0 牧野伊織 (名寄高)	池田 田 2-1 後藤侑希 (滝川高)	上山昇大 (帯大谷高) 2-0 新谷悠太 (岩見沢緑陵高)	太田竣 (旭川実高) 2-0 山 口	丸山 山 2-1 木津健斗 (旭川実高)	伊東駿 (旭川実高) 2-1 池 田	上山 山 2-1 荒川彰来 (旭川実高)	太田 田 2-1 丸 山	上山 山 2-1 伊 東	太田 田 2-1 上 山	△ダブルス▽準々決勝	島尻慎吾 (江陵高) 2-1 本元柊太 (後藤侑希)	山口史玖 (江陵高) 2-1 希 (滝川高)	上山昇大 (帯大谷高) 2-1 橘弥麻斗 (旭川実高)	関根陸 (帯大谷高) 2-1 田中陽 (旭川実高)	△準決勝	島尻・山 2-1 伊東駿・旭川実	山口史玖 (江陵高) 2-1 太田竣・旭川実
根 上 山 関 2-1 塚田大樹 (深川西高)	口 島尻・山 2-1 上山・関 2-1 根	澤沼音里 (帯一中) 2-0 村瀬百花 (旭川実高)	中塩春菜 (深川西高) 2-0 濱下紗希 (帯大谷高)	澤 沼 2-0 安東紗弥 (武修館高)	片山優亜 (深川西高) 2-1 澤 沼	漆畑ほのか (深川西高) 2-0 片 山	原弥涼・広瀬友乃 (帯南商高) 2-0 高橋杏奈・計萌花 (岩見沢緑陵高)	水田莉緒・高見優里 (旭川実高) 2-1 濱下紗希・中井優純 (帯大谷高)	片山優亜 (深川西高) 2-1 原・広瀬	梨 花 井 愛 2-1 橋本風香 (梨秋絵)	梨 花 井 愛 2-1 梨 (帯南商高)	片山・中塩 (旭川実高) 2-0 犬嶋美南海・巨武沙菜 (旭川実高)	片山・中塩 (旭川実高) 2-0 犬嶋美南海・巨武沙菜 (旭川実高)	梨 花 井 愛 2-1 橋本風香 (梨秋絵)	梨 花 井 愛 2-1 梨 (帯南商高)	山口史玖 (江陵高) 2-1 太田竣・旭川実	山口史玖 (江陵高) 2-1 太田竣・旭川実	山口史玖 (江陵高) 2-1 太田竣・旭川実